

授業科目名	【 G 】	教養演習Ⅰ・Ⅱ W	区 分	開講年次	【 G 】 2	単位数	【 G 】 2+2	
	【 H 】	教養演習Ⅰ・Ⅱ W			【 H 】 2		【 H 】 2+2	
	【 I 】	教養演習Ⅰ・Ⅱ W			【 I 】 2		【 I 】 2+2	
科目区分	基本科目							
授業形態	対面開講							
担当形態	単 独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブタイトル	メディアリテラシー基礎			担当者	見崎 浩一			
授業概要	【 概要 】	<p>【概要】 現代の「情報社会」において、私たちは膨大な情報と日々向き合っています。特に生成AIの急速な進化は、情報の生産・流通・消費のあり方を根本から変えつつあります。 本授業では、メディアリテラシーの基礎概念（クリティカルシンキング、情報の真偽判断）に加え、生成AI時代に必須となる「AIリテラシー」の習得に注力します。 具体的には、大学生向け教育プログラムを取り入れ、生成AI（Gemini等）の仕組みや対話のコツを基礎から学びます。ツールを用いた画像生成や物語制作の実習、および社会課題に関するディベートを通じて、実践的なスキルを磨きます。 単にAIの操作方法を学ぶのではなく、AIが生成する情報のリスク（ハルシネーションやバイアス）を理解し、ファクトチェックを行う批判的思考力を養うことで、「生成AIに使われるのではなく、生成AIを主体的に使いこなす」能力の獲得を目指します。</p> <p>【実務経験を活かした授業】 さまざまな報道現場を経験した元新聞記者の教員が、情報社会に必要な信頼性のある情報を見極める力を学生たちと教え、能力向上を目指します。 新聞に掲載されたニュースや企画記事、情報などを取り上げながら、メディアリテラシーの重要性を説き、学生たちがデジタル・生成AI時代の情報を的確に評価し、利用するスキルを身につけます。</p>						
	【 到達目標 】	<p>1. メディアリテラシーの深化：多様なメディア（マスメディア、SNS）の特性を理解し、情報を批判的・多角的に読み解くことができる。 2. 生成AIの活用スキル：Gemini等の生成AIに対し、目的に応じた適切な指示（プロンプト）を出し、対話を通じて思考を整理・深化させることができる。 3. クリティカルシンキングと倫理観：AIによる情報の誤りやリスク（著作権、プライバシー、偽情報）を認識し、ファクトチェックや「AI炎上チェッカー」等のツールを用いて倫理的な判断ができる。 4. 実践的表現力：生成AIを補助ツールとして活用し、プレゼンテーション資料の作成、画像生成、物語制作などを通じて、自らの考えを効果的に発信できる。</p>						
履修条件	「情報リテラシー」の単位を修得済みであること。							
アクティブラーニングの方法	【 - 】	事前学習型	【 - 】	反転授業	【 - 】	調査学習	【 - 】	フィールドワーク
	【 - 】	双方向アンケート	【 ○ 】	グループワーク	【 - 】	対話・議論型授業	【 - 】	ロールプレイ
	【 ○ 】	プレゼンテーション	【 - 】	模擬授業	【 - 】	P B L	【 - 】	その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP（ディプロマ・ポリシー）①	-（当てはまらない）						
	DP（ディプロマ・ポリシー）②	◎（よく当てはまる）						
	DP（ディプロマ・ポリシー）③	◎（よく当てはまる）						
	DP（ディプロマ・ポリシー）④	-（当てはまらない）						
他科目との関連性	「情報リテラシー」で扱う内容（AI活用・データサイエンスなど）は修得済みであることを前提として授業を実施します。							
教科書	特にありません。							
参考書	坂本旬／山脇岳志（2021年）『メディアリテラシー 吟味思考を育む』時事通信社 外岡秀俊（2006年）『情報のさばき方 新聞記者の実戦ヒント』朝日新書 池上彰（2019年）『考える力と情報力が身につく 新聞の読み方』祥伝社							
評価方法	各授業の振り返りと学習・授業演習の成果物（40%）、演習への参加度合い（30%）、最終課題の発表と作成した最終成果物（30%）							
フィードバック方法	Classroom上のGoogleフォームを使用し、提出された自己評価や課題等についてのコメント等のフィードバックをします。							
評価基準	授業内容についてよく理解していると判断した学生にはその程度に応じてSまたはA、一部不十分な箇所がある学生についてはBまたはCとします。授業内容への理解自体が不十分な学生については、その程度に応じてDまたはEとします。6回以上欠席など評価不能の場合にはFとします。							

授 業 科目名	【 G 】	教養演習Ⅰ・Ⅱ W	区 分	開講年次	【 G 】 2	単位数	【 G 】 2+2
	【 H 】	教養演習Ⅰ・Ⅱ W	選 択 必 修		【 H 】 2		【 H 】 2+2
	【 I 】	教養演習Ⅰ・Ⅱ W			【 I 】 2		【 I 】 2+2
授業内容	<p>本授業は、講義形式と、PCを用いた演習（実習）やグループワーク等のアクティブラーニング演習を中心とします。 前期は、従来の情報行動を見直し、生成AIとの正しい付き合い方を学ぶ基礎期間とします。 後期は、AIを「思考の壁打ち相手」や「創造のパートナー」として活用し、アウトプットの質を高めることを目指します。</p> <p><前期>メディアリテラシー基礎+Geminiアカデミー ・メディアとは何か/情報社会と「情報健康」の基礎理解 ・学生のスマホ・情報行動アンケートの分析と行動変容 ・生成AIと検索（従来検索との違い/プロンプトの工夫）の基礎演習 ・Geminiアカデミーを用いたAIリテラシー学習 ・身の回りのAI/Geminiとの対話/会話のコツ/AIの誤り体験 ・AI炎上チェッカー等を用いたSNSリスクと炎上防止の演習 ・前期の学びの振り返りとミニ・プレゼンまたはレポート</p> <p><後期>生成AI活用演習+画像リテラシー+ファクトチェック ・ニュースを題材にした情報リテラシー応用とスピーチ演習 ・Gemini を使った要約・要点抽出・壁打ち（思考整理）の実践 ・NanoBanana/NanoBananaPro/Storybook による画像・物語生成とリスク検討 ・生成AIを活用したファクトチェックとクリティカルシンキング演習 ・ディベート演習</p>						
予習内容	<p>【内容】（目安：各回90分） ・ニュースの定点観測：日々の主要ニュース（新聞、TV、Webニュース）に加え、IT・AI技術に関する最新トレンドをチェック（1日10分以上）し、自分なりの意見を持っておくこと。 ・ツールのセットアップと試行：授業で使用するAIツール（Gemini、NanoBanana等）に事前にログインし、基本的な動作を確認しておくこと。 ・課題図書・資料の読み込み：指定されたテーマ（SNS規制、AI倫理など）に関する背景知識を事前にリサーチし、論点を整理しておくこと。</p>						
復習内容	<p>【内容】（目安：各回120分） ・演習課題のブラッシュアップ：授業内で作成した成果物（画像、文章、スライド等）を修正・完成させること。 ・ファクトチェックの実践：授業やAIとの対話で得られた情報について、一次情報（信頼できる情報源）に当たって裏付けを取り、情報の正確性を検証すること。 ・プロンプトの改善（リライト）：授業内でAIに出した指示（プロンプト）を振り返り、「もっと良い回答を得るにはどう指示すべきだったか」を再考・実践すること。</p>						
その他	<p>ClassroomやGoogleフォーム等を毎回積極的に活用します。スマートフォンではなく、パソコンを活用しましょう。 社会環境の変化や、生成AIテクノロジーの進化により、シラバス内容の入れ替え等の可能性があります。その場合は事前に告知します。</p> <p>※G・H・I加：【Iは選択必修（A）・IIは選択必修（B）】</p>						